
エイト・ワールド ~人が見るラグナロク~

8つの世界のエイン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

エイト・ワールド ～人が見るラグナロク～

【NZコード】

N3290R

【作者名】

8つの世界のHイン

【あらすじ】

『魔法』が当たり前のように使われている世界。人だけでなく、魔族や神族といった多種多様な生物が暮らしていた。人々は8つある大陸の霸権を巡り、日々争いを繰り返している。

そんな中で、人族の少年エインは希望を胸に旅だとうとしていた。彼はその瞳で何を見て、何を感じるのか・・・。

設定だけが超大ボリュームになってしまったので、先にそちらを見たほうがいいかもしれません。

設定

1・この世界には魔法と呼ばれる力があり、魔力が世界中の人都が持っている。

2・魔力は世界の中心にある【世界樹】^{ヨガドラシル}が生み出している。

3・魔力とは世界樹が生み出す『自然の魔力』と『生物の体内の魔力』に分かれている。

4・世界は8つの大陸に分かれていて、それぞれが独立している。(第6項にて詳細)

5・世界には大きく分けて人族・魔族・神族・龍族・竜人族・獣人族・妖精族・精霊族の8種族がいる。(第7項にて詳細)

6・第1の大陸・グランマナ。ここには世界樹があり、生物は生息していない。世界で最も大きな大陸ではあるが、世界樹からの濃厚すぎるマナに満ちていて、普通の生物じゃとてもじゃないが暮らすことは出来ない。体内魔力が高く、対魔性が高い生物でも一ヶ月もいれば体内の魔力が増幅・暴走し、体内から爆発する。

第2の大陸・魔界。^{ヘルヘイム}魔族^{デーモン}が治めていて、下級の魔族は悪魔と呼ばれている。現在統治しているのは最上位魔族【魔王】4名。?ルシファー?ベルゼブブ?アスモデウス?アンリ・マンゴ。また、闇の属性を持つ精霊族が住んでいる。

第3の大陸・神界^{アースガルド}。神族の1つ、アース神族が住んでいる。また、他種族の死んだ英雄（英靈）達をスカウトして、死せる勇者達も住んでいる。主神『オーディン』が治めている。ちなみに大昔にはもう1つの神族ヴァン神族があつたが、『ラグナロク』によつてアーヴス神族がヴァン神族が住んでいた大陸天界^{ヴァナヘイム}ごと滅ぼした。

第4の大陸・人界^{ミッドガルズ}。主に人族が住んでいるが、2番目に大きい大陸のため、様々な種族が霸権を巡つて争つてゐる混沌の大地。現在4つの国家が霸権を巡つて争つてゐる。

- 1・アルトリア 大陸中央に位置してゐる、人間族の国。
- 2・ヴィルノア 大陸北部から西部に位置してゐる、魔族の国。
- 3・クレルモンフェラン 大陸東部に位置してゐる、神族の国。
- 4・フレンスブルグ 大陸から見て南東の離れ小島に位置してゐる、魔法が発達してゐる他種族国家。現在特に霸権を争つてはいない大國。

5・ジエラベルン 大陸南西に位置する、他種族国家。貧富の差が大きく、現在内戦中。

6・倭国 大陸から少し離れた南西の島国。人間族の国だが、他国と全く係わり合いがないため、独特的な文化が築かれている。

第5の大陸・炎界^{ムスヘルハイム}。精靈族の中でも最も多い種族、火の精靈族が住んでゐる。他にも龍族・竜人族が住んでゐるが、霸権に興味がないため、実質火の精靈族が治めている。火の大精靈・炎帝『イフリート』が治めている。

第6の大陸・靈界^{アルフハイム}。妖精族、通称エルフが治めている。光の属性の精靈も住んでゐるが、グランマナに近いせいか他の種族には住めない領域。2番目にマナが多いため、他種族に狙われてゐる大陸。エルフの族長『エルヴィス』アールヴ』が治めている。

第7の大陸・氷界^{ニガルヘイム}。氷・水の精靈族が多くすむ。頂点に立つのは冰雪の魔王『ヘル』。

第8の大陸・巨界^{ヨトウンヘイム}。巨人族であるヨトウンが住む。他の種族に必要以上に排他的であり、巨人族の王『ウートガルザ・ロキ』は他種族を決して近づけさせない。また、巨界と名付けられるだけあって3番目に大きな大陸であり、住む種族も少ないと土地は有り余っている。

7・この世界は7種族が混合して住んでいる。

?人族。特別な特徴はなく、強いて言うなら『器用』。剣や槍などの武器での攻撃から、体内魔力^{オド}を使つた魔法攻撃、また剣や弓など の武器や防具、建築物やその他雑貨など、物を作ることも得意。器用貧乏だが、稀に強力な人間が生まれることがあるらしい。他種族との愛称も良く、他の種族と結びつき、ハーフを生み出すことでも有名。寿命が短く、100年に行かない場合が多い。

体力：C 魔力量：C 筋力：B 魔力効率：B 魔法防御：C
敏捷：B 器用：S

?魔族。潜在魔力が高く、魔法攻撃や魔力を武器に載せての攻撃が得意。身体能力も高く、戦闘力が極めて高い。翼を持つ種族もあり、多種多様な種族が混在している。寿命は千年単位らしい。

体力：A 魔力量：A 筋力：A 魔力効率：S 魔法防御：B
敏捷：A 器用：D

?神族。最も高い魔力を持ち、魔法を多種多様に操る。魔法攻撃、防御魔法、治癒魔法などその能力は高い。変わりに身体能力が低く、魔法なしでは人族にも劣る。が、代わりに身体強化魔法を得意としており、体内魔力^{オド}が切れない限りは、高い能力を持つ。寿命は千年単位らしい。

体力 : C 魔力量 : S 筋力 : C 魔力効率 : A 魔法防御 : S

敏捷 : B 器用 : B

? 龍族。古の時代よりいるこの世界の霸者。高い身体能力、物理攻撃をはじき返す硬い鱗、魔法攻撃ですらその高い魔法防御によってはじき返されることのほうが多い。翼を持つ種族が多く、口からは超高熱の炎を吐き出す。寿命は千年単位らしい。

体力 : SS 魔力量 : E 筋力 : SSS 魔力効率 : E 魔法防御 :

A 敏捷 : A 器用 : E

? 竜人族。龍族と人族がかなり前の時代に混ざり合い、1つの大きなコミュニティとなつた。龍族の特徴の高い身体能力とブレス攻撃、人族の特徴の『物を作り出す』という特徴両方を持つ。数がないため、他種族に攻め込まれたら負けるといわれている。人と交わり寿命が減り、500年程度生きれば長寿。

体力 : S 魔力量 : C 筋力 : S 魔力効率 : D 魔法防御 : C

敏捷 : A 器用 : D

? 獣人族。獣と人が合わさつたような姿をしているが、人族との関係はない。竜人族並の高い身体能力を持ち、様々な状況化で生き残るよう、野性の力が高く、環境への適応力が極めて高い。中には知性を持ち、武器を使う種族なども存在する。寿命が最も短く、50年程度生きれば長寿。

体力 : A 魔力量 : D 筋力 : A 魔力効率 : C 魔法防御 : C

敏捷 : SS 器用 : C

? 妖精族。エルフと呼ばれるこの種族は、神族、魔族に続いて高い体内魔力を持つ。多種多様な魔法を使える点は神族と同じだが、その特徴は寿命の長さ。身体能力は神族よりも圧倒的に低いがその割りに平均寿命は軽く1000歳を超える。2~3000年生きてい

る者もいる。また、魔法器具の作成が最も得意であり、その魔力を込めた武器や防具などは他の種族にとつては脅威。また、伝承によると現代に残る魔法のほとんどがエルフが作成瀬したものらしい。

体力：D 魔力量：A 筋力：E 魔力効率：S 魔法防御：S
敏捷：A 器用：A

?精靈族。肉体を持たず、靈体（アストラル体）のみを持っている。高い体内魔力というよりは、周囲の自然魔力^{マナ}を使用して魔法を使うことが出来る。だが、あまり乱用すると体と自然の境界が保てなくなり、消滅してしまう。主な属性ごとに住みかや特性が異なり、火、水、地、風、氷、雷、光、闇、無の9種類に分けられている。また、精靈には各属性を統べる大精靈とその大精靈を統べる精靈王がいる。また、各属性の魔法はすべて大精靈の力の一部を世界とリンクさせて使っている。例：火の魔法は火の大精靈『イフリート』の力を使って使用できるようになっている。寿命はない。

体力：E ↗ A 魔力量：B ↗ S 筋力：E ↗ S 魔力効率：C ↗ S
魔法防御：A ↗ S S 敏捷：D ↗ S 器用：E ↗ A

?魔物。例外的なものではあるが、野生?の魔物があちらこちらに住んでいる。基本的に野生の獣と同様に本能のみで動いていて、様々な種族が確認されている。ごくまれに人間に懐き、捕獲^{ティミング}できることがある。

8・暦

この世界は10の月と30の日に分かれている。

光の月 火の月 風の月 無の月 王の月 水の月 氷の月 闇の月 土の月 雷の月 光の月となる。

日は普通に1～30で数える。年についても、普通に数えている。雷～光～火を暖の季節。風～無～王～水が零の季節。氷～闇～土が寒の季節となる。

物語が始まるのは無暦995年。火の月、29日から始まる。

設定（後書き）

暦を変更しました。というより月を。季節をつけるためには、一番がおかしいなーと思ったので。ついでに始まりの季節も変更。

順

第一話 過去（前書き）

設定だけが完全に前に前にと出てしまったので、それを先に呼んだほうがいいかもしません。

第一話 過去

火の月・29日

俺は別に勇者とか、英雄になりたかったわけじゃなかつた。

ただ、俺の力で・・・俺の手で、誰かをすくつてみたかつただけだつた。

今から2年前の風の月・1日。その日は俺の誕生日で、当時はまだ僕だつたけど とにかく俺は浮かれていた。だから、村の近くまで野生のはぐれオークが近づいてる事に気づいてなかつたんだ。

突然茂みの中からオークが飛び出してきて、びっくりして腰が抜けた俺には、抗う術なんてなかつた。でもその時、どこからともなく現れた俺の見たこともない 僕の村にはいない、大人の人があ助けてくれた。その人はとても強くて、とてもかっこよかつた。その人は一瞬にしてオークを倒して俺を救つてくれた。彼はヴェイルと名乗り、俺の村まで送るといつてくれた。

後で聞いた話によれば、そのヴェイルという旅の剣士は村長に雇われた傭兵だつたらしい。村の近くにオークが出ているというのを聞いてなかつた俺は、当然怒られた。その人はオークを滅するまでは村に滞在すると言つていた。

俺はその人に憧れて、剣を教えてほしいと言つた。その人は當時まだ12歳だった俺にはまだ早いと教えてくれなかつた。でも、もし俺が15歳になつて、また会うことが出来たら教えてくれると約束した。

約2週間ばかり村に滞在した彼は、近隣のオークをあらかた退治したといつて去つていつた。幼いながらに思つてしまつた。『こう

いう人になつてみたい』と。俺は両親に頼み込んだ。15歳になつたら、旅に出たいと。そして、俺もヴェイルという傭兵みたいに人々を助けてみたいと。

・・・何度も怒られ、親父には何度も殴られた。それでもあきらめない俺は、毎日毎日母さんと親父に説得を続けた。そうして2ヶ月がたつたときに親父と母さんは条件を出してきた。

親父の方は『絶対に死なないこと』と『人に迷惑をかけないこと』だった。もちろん俺は死ぬ気も、迷惑をかけるつもりもないの即答した。母さんの方は、母さんが覚えている魔法を15歳の誕生日までに覚える、ということだった。

・・・残念ながら俺には魔法の才能があまりなかつたけど、（妹のリティアはすぐに使えるようになった）半年が経つ頃には一応使えるようになつていた。俺と生まれたときから一緒の風の精霊フューリーも魔法の特訓に付き合ってくれて、フューリーが使える魔法も今では使えるようになつていた。

俺はエイン。命の恩人であるヴェイルに会いたいと望み、外の世界を見てみたいと思うこの世界ではごく普通の少年だったと思う。・・・俺が旅立つまで後2日。このときの俺は、この先に待つている未来を知らずにいた。

第一話　過去（後書き）

まあ、妄想爆発な物語ですが、それでもいいという方はお付き合いくださると嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3290r/>

エイト・ワールド ~人が見るラグナロク~

2011年10月8日19時12分発行